

令和5年度第2回次世代空モビリティひょうご会議

日時：令和6年3月12日（火）15：30～17：00
場所：兵庫県2号館5階庁議室（オンライン併用）

1. 開会
2. 空飛ぶクルマ実装促進事業補助金 採択事業成果報告
3. 意見交換①
4. 令和5年度兵庫県事業報告・令和6年度兵庫県当初予算説明
5. 意見交換②
6. 閉会

【会議資料】

- 資料1 令和5年度兵庫県事業報告
- 資料2 令和6年度兵庫県当初予算
- 資料3 空飛ぶクルマ実装促進事業補助金採択事業成果報告

構成員名簿・出席者

02

区分	所属・職名等	氏名	備考
有識者	県立大学自然・環境科学研究所 教授	赤澤 宏樹	
	県立大学大学院工学研究科 准教授	荒木 望	オンライン
	公益社団法人ひょうご観光本部 CMO	江藤 誠晃	
	株式会社merchu 代表取締役	折田 楓	
	公益財団法人新産業創造研究機構 理事兼事務局長	川村 昌志	
	慶應義塾大学大学院SDM研究所 顧問	中野 冠	
事業者	株式会社神戸新聞社メディアビジネス局長	箸本 史朗	
	オリックス株式会社 大阪事業法人営業第一部課長	野澤 義直	
	兼松株式会社 航空宇宙部第1課員	中村 康平	
	株式会社SkyDrive 国内事業開発リーダー	小谷 達哉	
	全日本空輸株式会社 大阪支店支店長	種村 守之	(代理) 参事 小田 博之
	日本航空株式会社 エアモビリティ創造部長	村越 仁	オンライン
	株式会社パソナグループ 執行役員 Well-Being本部	大出 亮	(同席) 顧問 丹羽 高興
丸紅株式会社 航空宇宙・防衛事業部長	武智 聡	(代理) シニアアドバイザー - 菊池 武夫	
オブザーバー	経済産業省 製造産業局航空機武器宇宙産業課次世代空モビリティ政策室次世代空モビリティ戦略企画調整官	山本 健一	オンライン
	国土交通省 航空局 航空機安全課 室長	江口 真	オンライン
	神戸市 都市局長	山本 雄司	(代理) 都市局部長(未来都市担当)武田 史郎
	尼崎市 経済環境局長	吉田 淳史	

※順不同、敬称略

兵庫県出席者

所属・職名等	氏名
知事	齋藤 元彦
企画部長	守本 豊
産業労働部長	原田 剛治
土木部長	杉浦 正彦
企画部次長	川井 史彦
危機管理部次長	小野山 正
産業労働部次長	小林 拓哉
土木部次長	宇野 文章
[事務局（企画部総合政策課）]	
政策推進官兼副課長	青田 亮
主幹	黒沢 誠

空飛ぶクルマ実装促進事業補助金 採択事業成果報告 発表者

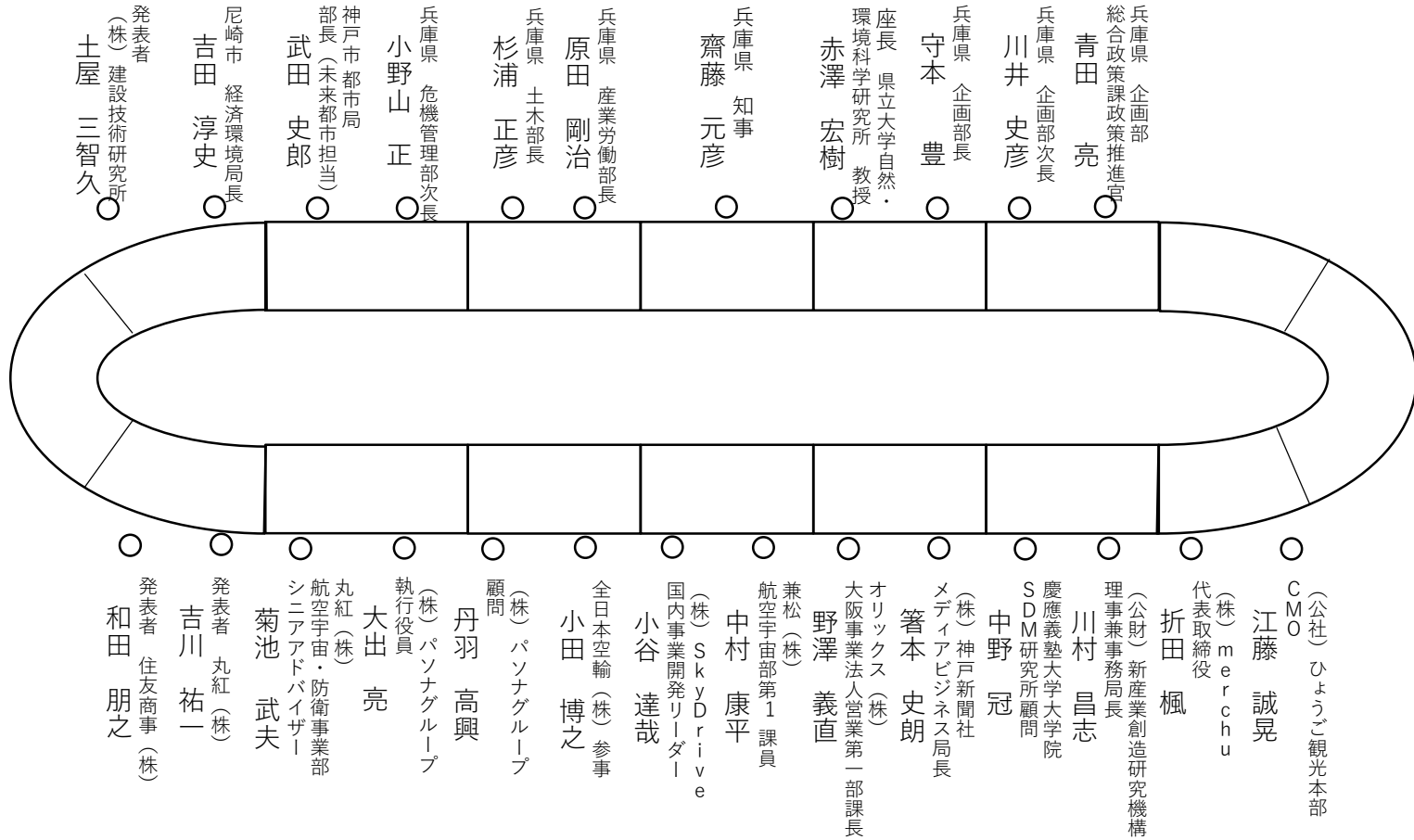
採択事業名	事業者・発表者職名	氏名
空飛ぶクルマの運航実現に向けた事業性評価・検証 ～みんなで成功させよう！空飛ぶクルマの世界 in関西エリア～	丸紅株式会社 航空宇宙・防衛事業部 航空第三課課長	吉川 祐一
空飛ぶクルマ試験飛行のリアルタイム監視及び、出前授業・試験飛行見学会の開催	住友商事株式会社 航空事業開発部 チーム長代理	和田 朋之
エアモビリティ統合運航管理プラットフォーム事業	三井物産株式会社 エビリティ第二本部 航空宇宙部次世代エビリティ事業開発室	石田 健将
兵庫・大阪での空飛ぶクルマの航空医療分野の活用検討	エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン 株式会社 営業企画部部長	大西 博伸
大阪湾ベイエリアにおける空飛ぶクルマの実機を活用した実証事業 ～“空の観光”創発プロジェクト～	株式会社建設技術研究所 東京本社 交通システム部 副部長 〔申請者：株式会社Air X 共同事業者：株式会社建設技術研究所〕	土屋 三智久
神戸市内ウォーターフロントにおける離着陸場設置検討調査	兼松株式会社 航空宇宙部第1課課員	中村 康平

配席図

事務局

兵庫県関係課

モニター



記者席

発表者 エアバス・シヤパン(株) 大西 博伸

発表者 三井物産(株) 石田 健将

傍聴者席

(操作卓)

事務局

神戸市

(公財)新産業創造研究機構

(株)merchu

兵庫県 宇野 文章 土木部次長

兵庫県 小林 拓哉 産業労働部次長

兵庫県関係課

会議の趣旨・目的、検討内容

【参考】

1 趣旨・目的

新たなサービスの展開や地域課題の解決につながることを期待される「空飛ぶクルマ」について、2025年大阪・関西万博での県内飛行実現を当面の目標としつつ、その先も見据え、課題や今後の可能性など、関係者と意見交換するとともに、社会実装に向けて、県内の社会受容性の向上・気運醸成につなげていく。

【会議の位置づけ】

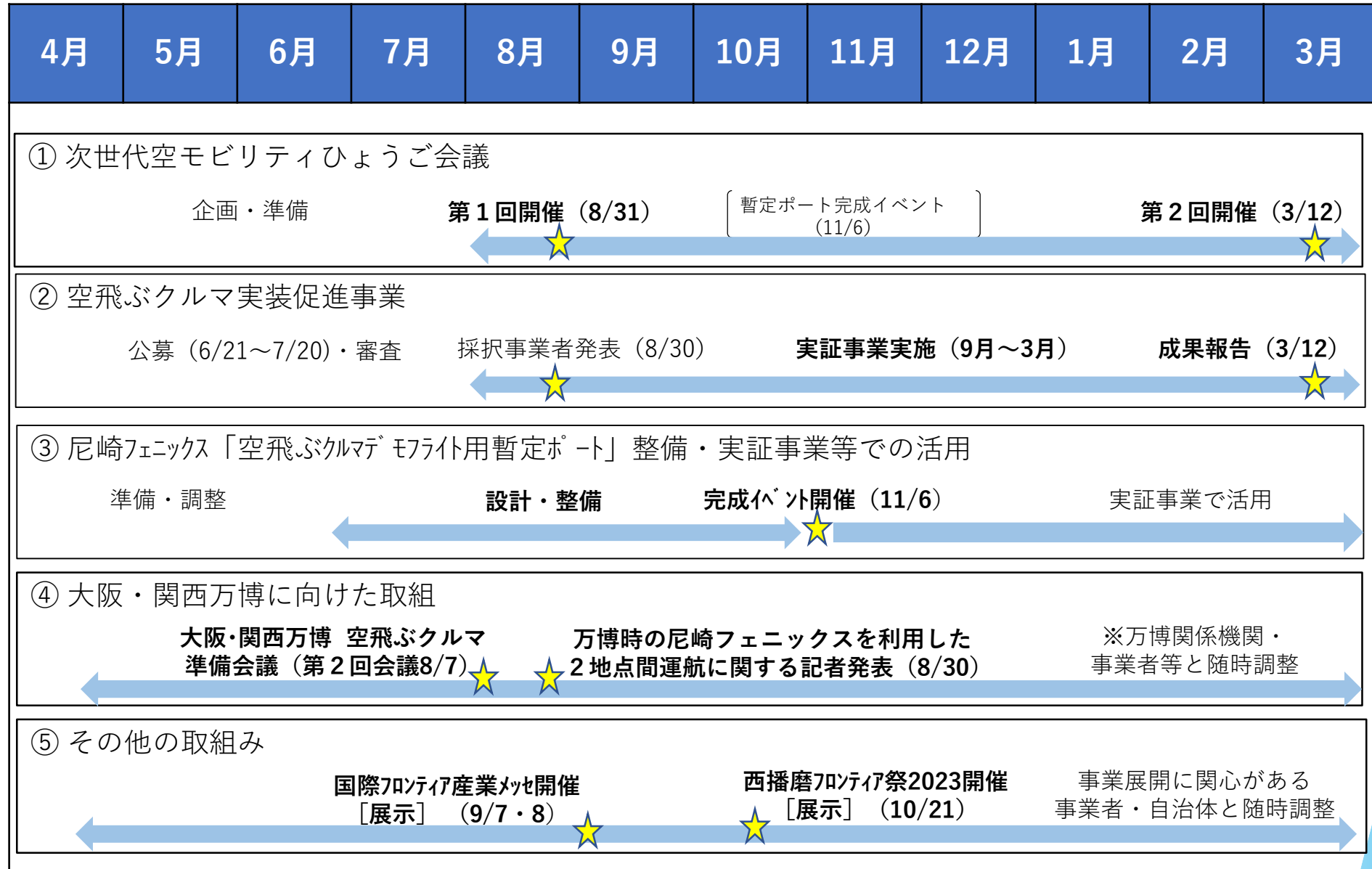
設定されたテーマについて関係者に議論いただき、得られた様々な考え方・意見を、県が空飛ぶクルマに関する施策を展開していく上での基礎とする。

2 検討内容

- (1) 2025年大阪・関西万博での県内飛行実現に向けた取組
- (2) 県内における将来的な利用シーン
- (3) 県内における関連ビジネスの定着に向けた環境整備
- (4) 社会受容性の向上に向けた取組

資料 1 令和 5 年度兵庫県事業報告

令和5年度空飛ぶクルマの社会実装に向けた主な取組



各取組の詳細は次ページ以降に記載

「第1回 次世代空モビリティひょうご会議」での主な意見

- 日時等： 令和5年8月31日（木）14時～16時 兵庫県庁2号館5階庁議室（オンライン併用）
- 内容： 兵庫県の取組等の説明、意見交換（想定される利用シーン、社会受容性の向上、関連ビジネスへの波及等）

【出席者からの主な意見と本県における取組の方向性（1／3）】

区分	主な意見	本県における取組の方向性
① 利用シーン全般	兵庫県には空飛ぶクルマにとって需要が高い 大都市 から、需要が少なく事業性が難しい 山間部 まで 多様な地域 で構成され、地域間 交通の利便差 や、瀬戸内と日本海側の 気候差 もある。様々な課題がある一方で 景勝地・観光地 のほか、 産業の集積 もあるなど空飛ぶクルマの活用の可能性が高い。だからこそ、日本の中で率先して空飛ぶクルマの導入を検討していくには 最適な県 と考える。	<p>■「日本の縮図」とも呼ばれ多様性に富む本県の特性を活かし、各地域でどのような利用が可能か、課題解決・効果につながるのか、引き続き検討を進めていく。</p> <p>【参考：兵庫から空飛ぶクルマの実装へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大阪湾・阪神間エリア ～空飛ぶクルマ リーディング・ベース～ ○瀬戸内・播磨エリア ～空と海が織りなす新観光～ ○但馬エリア ～多自然地域 移動の新展開～
	今後、どのようなユースケースで、 採算の取れる事業 になるかが問題。	
	空飛ぶクルマにより、観光、医療、防災といった ユースケースでの課題 に対して、どのような 解決策 を示せるのかが重要。それが 社会受容性の獲得 にもつながる。	
	地元の経済効果、QOLや医療効果などを、 定量的に把握 することも重要。	
② 観光・レジャー	特に瀬戸内は気象条件がよく 、空飛ぶクルマには適している。運賃にもよるが、遊覧観光、瀬戸内の離島間や神戸での短距離飛行は、十分 ビジネスになる と考えられる。	<p>■気象条件が良く、海上など社会受容性の観点からも空飛ぶクルマの運航に適している瀬戸内を中心に、観光・レジャーを目的とした利用での検討を優先的に進めていく。</p> <p>■広域的な連携も視野に入れ、大阪府や香川県等との調整を進めていく。</p>
	瀬戸内海の県がそれぞれ1～2つ、離着陸場を支援して整備すれば、 瀬戸内全体でマトリックス型 の事業展開ができるのでは。	
	遊覧飛行 の場合、離着陸場が1つでよいほか、海上であれば騒音やプライバシーの問題もないので、他の用途と比較すると 技術的にも実現 が容易ではないか。	

「第1回次世代空モビリティひょうご会議」での主な意見

【出席者からの主な意見と本県における取組の方向性（2/3）】

10

区分	主な意見	本県における取組の方向性
③ 観光、 移動手段 地域	<p>神戸空港の国際化も予定されている。入国した方が空飛ぶクルマで1時間以内に県内の各温泉地（有馬、洲本、城崎、湯村など）に行けるなど、おそらく富裕層にとって大きな可能性がある。</p> <p>空飛ぶクルマでは、遊覧のほか移動中も含めた価値創造が期待できる。</p>	<p>■観光やビジネスで活用できるよう、まずは、都市部の空港等からの二次交通や、県北部の但馬空港を拠点とした移動手段としての利用など検討を進める。</p>
④ 救急医療、 災害対応	<p>但馬を中心とする3府県ドクターヘリの出勤回数は全国最多。ヘリよりも空飛ぶクルマの運航コストが安くなれば、機内での治療が必要ない場合は、タクシー機能として空飛ぶクルマが補完できる可能性もある。</p> <p>ドクターヘリの運航費にはパイロット・運航管理者・メンテナンスの配置に係る費用も含まれており、空飛ぶクルマでも同様に運用すれば運航費は大幅には下がらない。観光など他の用途でエアタクシーが普及してくれば、それを利用することも考えられる。</p> <p>マルチコースの観点では、ニューヨークで昼間は人を輸送し、夜は医療用の検体を運ぶといったヘリコプターの事業を成立させている事例もある。</p> <p>県民にとって、自分たちも乗るという前提部分がないと、なかなか広がらないのでは。例えば、救急医療や災害対応等であれば、自分に置き換えて考えられ、もう少し議論の中に入ってくるのではと思う。</p>	<p>■難易度の高い分野での活用は高機能で技術的にも専門性のあるヘリが優位の状況。ドクターヘリなど制度的な枠組みや運航費の問題も踏まえる必要。</p> <p>■平時は他の用途で利用するマルチユース型、医療行為のない移動手段としてのタクシー機能など、ヘリを補完する機能を探る。</p> <p>■特に自然災害時における交通途絶の場合等で活用が期待される。阪神・淡路大震災の経験、能登半島地震の状況など、公益性の高さも踏まえて検討する。</p> <p>■県合同防災訓練等において、ヘリやドローンを活用した物資搬送などの実証事業を進めていく。</p>
⑤ 離着陸場の整備	<p>例えば都市部の神戸といった高需要地に大規模な離着陸場を整備し、各地をつなぐスポーク&ハブといった考え方も一つ。</p> <p>需要の高い場所で定期運航をする場合は数機停まれる広さのあるポートが必要。一方、低頻度の運航で事業を行う場合は立派な離着陸場は不要。</p> <p>離着陸場は騒音の問題もある。離着陸場から150m程度離れないと音が気になる。神戸市内での離着陸場整備や、夜間など、もう少し音が小さくならないと周辺住民から苦情が出る可能性がある。</p> <p>自治体が関与した方がよい点は、離着陸場整備のための土地の提供と住民の説得と考える。また、離着陸場を整備する際の補助があれば事業者は助かる。</p>	<p>■R5年度にフェニックス事業用地で暫定ポートを開設した。R6年度に万博時の飛行に必要な安全柵を設置。</p> <p>■R6年度から「空飛ぶクルマ実装促進事業」を拡充し、離着陸場整備の準備を行う事業者を対象に加えて支援していく。</p> <p>■事業者のニーズも踏まえながら、他の離着陸場の候補地の可能性も探り、地元自治体との調整を進めていく。</p>

「第1回次世代空モビリティひょうご会議」での主な意見

【出席者からの主な意見と本県における取組の方向性（3／3）】

区分	主な意見	本県における取組の方向性
⑥ 社会受容性	戦略的かつ計画的な 県民へのコミュニケーション や アプローチ が重要。 フェーズごとにどう準備 するのか、面でのコミュニケーションプランを立て、社会受容性の確保をどう実現していくのか議論を深める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ■R5年度は暫定ポイント完成イベントを実施。各種イベントでの展示、実証実験の公開など、空飛ぶクルマを少しでも身近に感じてもらえるよう情報発信を実施。 ■まずは2025年の万博での飛行を通じて全国規模での認知度を向上できるよう準備を進める。 ■利便性向上や期待できる効果とあわせ、安全性等、段階に応じた住民への理解に向けて検討を進める。
	シンプルに夢があり、ワクワクする取組という印象を県民の方に持ってもらえるような 「夢を見せるブランディング」 とあわせ、安心感や信頼感の醸成のための 「地に足の着いた情報発信・広報活動」 を確実に実行していくべき。	
⑦ 関連ビジネスへの波及	産業振興ではバリューチェーンを考慮して、 県内企業 がどう入っていけるかを考えることが大切。ベンチャー企業の育成ということも考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ■本県での事業展開に意欲的な事業者を支援することで参入を促進する。あわせて、多様な技術を持つ企業が集積する本県の利点を活かし、産業の裾野拡大に向けて検討を進める。 ■まずは2025万博を契機として、観光や関連産業の拠点形成を図る。 ■特に県内大学や企業など専門的な知見も含めた協力が得られるよう当会議で議論を深めるとともに、各地域の事業者間での連携を目指して取組みを進めていく。
	県内には航空宇宙関連の企業が数多く存在し、その裾野を支える二次、三次の関連の企業も多い。空飛ぶクルマやドローンに対して、 中小企業としてどのように参入できるかという関心が高い 。サプライチェーンを含めて、これからエアモビリティの中で何が必要なのかを見据えた上で、企業の支援、産業振興をしていく必要がある。	
	県立大学と連携したプログラムや人材育成、学生のアイデアを拾い上げるような機会をつくりながら拡張していく流れが必要。 産官だけではなく、学や金（金融・ファイナンス）も含めて 、都市経営としての人づくりとまちづくり、産業づくり、社会課題の解決など総合的に考えていく必要がある。	

兵庫から空飛ぶクルマの実装へ

【参考】



大阪湾・阪神間エリア
～空飛ぶクルマリーディング・ベース～

フェニックスを拠点とし、大阪とも連携しながら、観光や関連産業の拠点を形成



瀬戸内・播磨エリア
～空と海が織りなす新観光～

香川等と連携し、瀬戸内の島々や地域をつなぐ長距離海上周遊を実現



但馬エリア
～多自然地域 移動の新展開～

但馬空港を拠点として、多自然地域間を結ぶ新たな移動を実現



地図出典：国土地理院

地中美術館

金刀比羅宮

鳴門海峡

うずまちテラス
ヘリポート

夢舞台

空飛ぶクルマ実装促進事業

1 事業概要

県内において空飛ぶクルマを活用したビジネス展開をめざしている事業者の取組を支援。なお、本事業は大阪府、大阪市、神戸市と連携し、県と大阪府にまたがる事業については、兵庫県・大阪府枠として採択し、補助上限を引き上げ支援

2 補助内容

	兵庫県・大阪府枠 ※1	兵庫県枠 ※2
補助対象者	兵庫県域及び大阪府域で事業を行う事業者	兵庫域のみで事業を行う事業者
対象事業	<ul style="list-style-type: none"> 空飛ぶクルマの実現に資する実証実験 空飛ぶクルマの実現に資する調査・検討 社会受容性の向上へ向けた取組み など 	<ul style="list-style-type: none"> 空飛ぶクルマの実現に資する実証実験 空飛ぶクルマの実現に資する調査・検討 社会受容性の向上へ向けた取組み など
補助割合	対象経費の2分の1以内 (兵庫県4分の1/大阪府4分の1)	対象経費の2分の1以内
補助上限	2,000万円 (兵庫県1,000万円+大阪府1,000万円)	1,000万円

(最大)



(最大)



※1 大阪市域を含む場合には大阪市補助事業による支援あり(上限500万円)

※2 神戸市域を含む場合には神戸市補助事業による支援あり(上限500万円)

3 採択結果

区分	事業者	事業名	補助自治体
兵庫県・大阪府枠	丸紅株式会社	空飛ぶクルマの運航実現に向けた事業性評価・検証 ～みんなで成功させよう！空飛ぶクルマの世界in関西エリア～	兵庫県、大阪府、大阪市
	住友商事株式会社	空飛ぶクルマ試験飛行のリアルタイム監視及び、出前授業・試験飛行見学会の開催	兵庫県、大阪府、大阪市
	三井物産株式会社	エアモビリティ統合運航管理プラットフォーム事業	兵庫県、大阪府、大阪市
	エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社	兵庫・大阪での空飛ぶクルマの航空医療分野の活用検討	兵庫県、大阪府
兵庫県枠	株式会社AirX	大阪湾ベイエリアにおける空飛ぶクルマの実機を活用した実証事業～“空の観光”創発プロジェクト～	兵庫県、神戸市
	兼松株式会社	神戸市内ウォーターフロントにおける離着陸場設置検討調査	兵庫県、神戸市

2025年 大阪・関西万博に向けた取組

1 兵庫県の取組

- 開催期間中の2地点間運航実現に向け、運航事業者の**丸紅株式会社**や国等と調整中
- 運航経路は尼崎フェニックス事業用地～万博会場を予定
- 使用機体：**Vertical Aerospace (英) VX4**



【VX4の概要】

- ・航続距離160km超
- ・定員5名（パイロット含む）
- ・型式証明申請済（R5.3.29）
- ・全長13m×全幅15m×全高4m

画像：(株)丸紅提供

2 参加事業者の状況（R6.3.12時点）

区分	事業者名	想定する会場外ポート候補
会場内ポート 運営協賛企業	オリックス株式会社	
運航事業 参加企業	ANAホールディングス株式会社及び JobyAviationInc.	会場周辺の湾岸・河川沿いの適地（検討・調整中）
	日本航空株式会社	桜島
	丸紅株式会社	尼崎フェニックス事業用地
	株式会社SkyDrive	大阪港・中央突堤

※ 今後開催予定の準備会議にて会場外ポートの情報を更新予定

- 空飛ぶクルマの2地点間運航を実現するため、会場外ポートや諸条件等を検討する「**大阪・関西万博 空飛ぶクルマ 準備会議**」を設置（R5.2）
- 第1回会議：R5.2 第2回会議：R5.8
第3回会議：調整中



© Airbus, CNES / Airbus, Digital Earth Technology, Landsat / Copernicus, Maxar Technologies, Planet.com, 地図データ ©2023

大阪・関西万博空飛ぶクルマ準備会議（第2回）公表資料を参考に事務局が作成

空飛ぶクルマデモフライト用暫定ポート（1 / 2）

1 尼崎フェニックス事業用地にデモフライト用暫定ポートを整備

【位置図】



【上空から撮影】



- 万博開催時の会場外駐車場の隣接地に整備することで、県民を始め、多くの方々に「空飛ぶクルマ」が飛ぶ姿を見てもらい、来たるべき未来社会を体感いただく
- 万博の気運醸成、空飛ぶクルマの社会実装に向けた実証実験の拠点として活用

空飛ぶクルマデモフライト用暫定ポート（2 / 2）

2 空飛ぶクルマデモフライト用暫定ポート完成イベントの実施



会場にVX4模型を展示

【開催概要】

- 開催日：令和5年11月6日（月）
- 開催場所：尼崎フェニックス事業用地
- 開催内容：①ヘリコプターによる模擬飛行
②デモフライト用暫定ポート完成式典
- 出席者：知事、国会議員、兵庫県議会議員、尼崎市市長、尼崎市議会議員
内閣官房、経済産業省、国土交通省、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
次世代空モビリティひょうご会議構成員 他

フェニックス事業用地～夢洲、空クルデモフライト動画



大阪湾ベイエリアに位置する「尼崎フェニックス事業用地」

尼崎フェニックス事業用地および尼崎の森中央緑地の活用に係るサウンディングの実施

大阪湾ベイエリア活性化の鍵を握る尼崎フェニックス事業用地及び尼崎の森中央緑地について、「賑わいづくり」や「産業利用」のアイデアや可能性を幅広く把握するため、民間事業者等を対象にサウンディングを実施しています。

1 サウンディング対象地と事業期間

対象地	フェニックス事業用地 ((A)(B)(C))、 尼崎の森中央緑地 ((D))
事業期間(対象地)	1.万博開催まで((B)(C)(D))、2.万博開催期間中((B)(C)(D))、3.万博終了後((A)(B)(C)(D))

2 位置図・サウンディング対象地



3 サウンディング調査

- 申込期間
令和6年1月18日～2月26日
- サウンディング調査
令和6年3月4日～（現在実施中）



空飛ぶクルマの展示等による普及啓発

1 国際フロンティア産業メッセ

- 今年度のテーマは「未来を創るイノベーション」
- 空飛ぶクルマ等の特別展示、VR体験など
- ビジネスチャンスの拡大、産学官の連携促進、情報交換の場を提供

【開催概要】

- 会 期：令和5年9月7日（木）～8日（金）
 会 場：神戸国際展示場1号館・2号館（神戸ポートアイランド）
 出展規模：480社・団体（うち、次世代空モビリティ関係の出展数：41社・団体）
 来 場 者：13,600人



株式会社SkyDriveによる特別展示

2 西播磨フロンティア祭2023～近未来の体験ワールド～

- 2025年開催の「大阪・関西万博」の機運醸成、地域の魅力を発信する地域PR・観光イベント
- 空飛ぶクルマ等の次世代科学技術の展示や体験を通して、播磨科学公園都市の賑わい創出と地域の連携・交流を促進

【開催概要】

- 日 時：令和5年10月21日（土）
 場 所：播磨科学公園都市芝生広場
 出展規模：①次世代技術の展示・体験
 13団体（空飛ぶクルマ2団体、ドローン5団体、水素関係2団体、
 科学教室2団体、天体関係1団体、ロボット1団体）
 ②地域の情報発信・交流促進
 75団体（各市町・観光協会6団体、ひょうごフィールドパビリオン6団体、
 大阪・関西万博2団体 等）
 ③その他（ステージ発表、キッチンカー18台）
 来場者数：16,000人



テトラ・アビエーション株式会社による実機展示

参考：防災分野におけるドローンの利活用

ドローンを活用した実証事業

○物資搬送分野でも研究開発が進むドローンを活用した災害発生時の速やかな被災者支援や、物資搬送等の実証実験

○兵庫県・丹波地域合同防災訓練において、**レベル3（目視外/無人地帯）**飛行により、**約2Kgの救援物資（飲料水、アルファ化米、医薬品）を搬送**

飛行距離：約1.2km（丹波の森公苑敷地内）

飛行高度：最大約68m

【兵庫県・丹波地域合同防災訓練 開催概要】

日時：令和5年9月3日（日）

場所：県立丹波の森公苑（丹波市柏原町）ほか

内容：救出救助訓練、避難所運営訓練等
（約60機関約800人が参加）



使用したドローン
(Matrice 300 RTK (DJI JAPAN 株式会社))

【Matrice 300 RTKの概要】

- ・サイズ：810 × 670 × 430 mm
（長さ×幅×高さ）
- ・重量：約6.3 kg
（バッテリー2個搭載時）
- ・最大飛行時間：55分

出典：DJI JAPAN 株式会社HP
<https://enterprise.dji.com/jp/matrice-300/specs>



救援物資搬送の様子

資料 2 令和 6 年度兵庫県当初予算

兵庫県における空飛ぶクルマの展開ロードマップ

目標

- 【短期】環境整備を促進し、万博時（2025年）の県内飛行を実現
- 【長期】事業者との連携により、県内に関連産業のエコシステムを形成



※Maintenance、Repair、Overhaulの略で航空機の整備・修理に関わる事業のこと

令和6年度「空飛ぶクルマ」の主な取組み（当初予算）

1 次世代空モビリティひょうご会議の開催 [608千円]

- **年2回程度開催予定**（開催時期は別途調整）

2 空飛ぶクルマ実装促進事業 [90,433千円]

- 事業者による事業開発を促進するため、県内フィールドを活用した実証事業等を支援

- 【主な拡充point】**
- ・ **離着陸場の設計**に要する費用を対象とする**補助を創設**
 - ・ **ビジネス化直前**の取組に対する**補助上限を引上げ**
 - ・ **募集時期を前倒し**、実証期間を確保

区分	兵庫県・大阪府枠	兵庫県枠
対象者	兵庫県・大阪府域で事業を実施する事業者	兵庫県域で事業を実施する事業者
対象事業	(1) 飛行実証等ビジネス化 準備に資する事業（実機を用いた実証実験 等）	
	(2) ビジネスモデルの検証 に資する事業（技術検証等の初期検討 等）	
	-	(3) 離着陸場整備のための事前調査、設計事業
対象経費	上記（1）と（2）は補助事業の実施に直接必要な経費 上記（3）は、（1）と（2）の対象経費に加え設計費の費用を支援	
補助額上限	上記（1） 30,000千円 ※兵庫県・大阪枠は大阪府から別途30,000千円（ 合計60,000千円 ）	
	上記（2） 5,000千円 ※兵庫県・大阪枠は大阪府から別途 5,000千円（ 合計10,000千円 ）	
	-	上記（3） 10,000千円
補助率	兵庫県1/4、大阪府1/4	1/2

※ 上記に加えて、神戸市と大阪市との連携（前年に引き続き）を実施

3 離発着場整備事業 [25,836千円]

- 万博時の飛行に必要な離発着場（尼崎フェニックス：暫定ポート）の**安全柵を設置**

令和6年度の主な取組み（その他）

1 西播磨フロンティア祭2024

- 2025年開催の「大阪・関西万博」の機運醸成、地域の魅力を発信する地域PR・観光イベント
- 空飛ぶクルマ等の次世代科学技術の展示や体験**を通して、播磨科学公園都市の賑わい創出と地域の連携・交流を促進

【開催概要】

時 期：令和6年10月下旬

場 所：播磨科学公園都市芝生広場

内 容：（1）次世代技術の展示・体験

（予定） **空飛ぶクルマ**、ロボット、水素自動車、ドローン、SPring-8・SACLA見学会 等

（2）万博PRゾーン（ブース、ステージイベント）の設置

（3）西播磨エコフェス

（4）西播磨観光PR、特産品市、「食」イベント、スポーツ教室 等

2 防災分野におけるドローン等の利活用

- 防災分野でも活用の検討が進むドローン等を用いて、**災害発生時の速やかな被害状況調査、救援物資搬送等**を実施

【概要】

時 期：令和6年9月1日（日）（予定）

場 所：養父市内（令和6年度兵庫県・但馬地域合同防災訓練に合わせて実施予定）

内 容：被害状況調査、救援物資搬送、避難広報等（調整中）



兵庫県